

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	たからばこ			公表日	R8年 3月 17日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・釣り下げ可動式の間仕切りを設置し活動や子どもたちの状況に合わせ、スペースを広く使ったり、区切ったり場面場面での適切を作るよう工夫している。	・スペースへの課題がないか、職員間で確認をしつつ、必要時には改善に向けた取り組みを行えるようにする。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		・職員の入れ替わりはあるが、支援に支障がないように新規職員への業務の伝達や子供たちへの支援方法の共有など工夫している。	・保護者様から要望のある職種のスタッフの採用に向けて準備を進めている。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		・子どもたちに分かりやすいよう、スケジュールなど視覚化できるものを視覚化したり、生活空間は段差がないようにする、状況に合わせ、区切れるようにするなど工夫している。	・子どもたちの状況の変化に合わせ、環境上の配慮にずれが出ていないか、職員間で確認をしつつ、必要時には改善に向けた取り組みを行えるようにする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		・掃除や使用したおもちゃなどの物品の消毒などを徹底し感染症対策を含め、子どもたちが安心して過ごせるよう工夫している。	・継続した掃除や使用したおもちゃなどの物品の消毒などの徹底を行い、感染症対策を含め、安心して過ごせる空間づくりに取り組んでいく。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		・釣り下げ可動式の間仕切りを設置し活動や子どもたちの状況に合わせ、スペースを広く使ったり、区切ったり場面場面での適切を作るよう工夫している。	・子どもたちの状況の変化に合わせ、室内の環境に改善点がないか職員間で確認をしつつ、必要時には改善に向けた取り組みを行えるようにする。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		・その日ごとの支援の振り返りや子どもたちの状況変化に対しての情報の共有、全職員参加の職員会議など実施し、広く職員が参画した改善が行えるよう工夫している。	・今後も職員間の情報の共有や業務改善に向けた取り組みを継続的に実施できるよう取り組んでいきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・保護者様からのアンケート結果を職員間で共有し、課題の把握を行う。	・保護者様からのアンケート結果を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行えるような取り組みが必要かを考えて対応していきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・適時行われる職員会議だけでなく、日々の職員間の情報共有の中でも、子どもたちへの支援を含めた業務改善の取り組みを行っている。	・職員が意見を話しやすい職場環境であるよう、今後も努めていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2		・タイミングを見て第三者評価を検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・強度行動障害研修や感染症対策研修など法人内外の研修を受けていただき、資質の向上につながる工夫をしている。	・今後も職員には法人内外の研修に参加していただき、自身のスキルアップにつながるよう支援していきたい。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		・支援プログラムは公表を行い、閲覧していただけるよう工夫している。	・より閲覧していただきやすいよう、ホームページなどでも公表できるよう準備を進めていく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		・職員間周知を随時行い、会議だけではなく随時意見交換を行っている。	・児童発達支援管理責任者のみの意見にならないよう、意見交流から吸い上げた意見を反映している。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		・職員間周知を随時行い、会議だけではなく随時意見交換を行っている。	・職員同士で倫理観に関してもすり合わせ、子どもの最善の利益に関して話し合う機会を頻繁に持つようになっている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		・職員が放課後等デイサービス計画をいつでも確認できるようにし、共有しやすい環境を作り、計画に沿った支援になるよう工夫している。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		・送迎時からよく子どもの様子を引き継ぎ、必要に応じて、児童の来所を待たずに全職員に周知と共有ができる環境整備を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		・放課後等デイサービスガイドラインを職員間で確認できるように、事務所に閲覧できるようにしている。狙いや支援内容は随時確認できるよう随時ケース検討を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・個々の職員で立案したり、職員間で活動内容や立案内容を相談やブラッシュアップしたり、個とチームで立案に取り組めるような工夫をしている。	・個人での立案やチームでの立案を通じて、子どもたちに合わせた活動プログラムを提供できるよう努めていきたい。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		・活動内容が固定化しないよう、職員間で活動内容について随時話し合いを行っている。	・個人での立案やチームでの立案を通じて、子どもたちに合わせた活動プログラムを提供できるよう努めていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		・児童の来所前に必ず、個別支援と集団支援の側面で活動の立案を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・支援開始前に職員間で必ず打ち合わせを行い、支援内容、役割分担、こどもたちの状況の共有を行い、連携して対応できるよう工夫しています。	・今後も支援開始前に職員間で必ず打ち合わせを行い、連携して対応できるよう努めていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		・支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りや気付いた点等を共有して、その後の支援に活かせるよう工夫している。	・今後も支援終了後には職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りや気付いた点等を共有して、その後の支援に活かせるよう努めていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・常勤を中心に日々の支援に関する記録を行い、記憶が鮮明な当日記載を心掛け対応している。	継続して行っていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		・児童発達支援管理責任者を中心に、随時ケース検討を行い、見直し等を行っている。	継続して行っていきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		・日々の活動の中でも自分で選べる環境を整え、自己選択を行ったことに対する称賛をこどもたちに行っている。	継続して行っていきたい。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・児童支援管理責任者を中心に参加し、参加前には職員周知を行い施設全体の意見となるようにしている。	継続して行っていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		・行政や学校に積極的に連絡するようにし、職員間の共有を行っている。	継続して行っていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		・各学校の年間行事予定表などの確認や担任や他の先生とのやり取りを通じて連絡調整を行うなど工夫をしている。	・今後も行事予定表や先生方とのやり取りを通じて、適切に連絡調整を行っていきけるよう努めていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	保護者を通じて意見をいただき、支援に反映している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		対象となる児童がまだ出ていない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2	研修参加をしている。	伝達研修まで行えていなかったもので、実施してきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		4	実施日時が支援中と重なり、参加できていない。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		・連絡ノートでのやり取りや送迎時の保護者様との直接的なやり取りを通じて、こどもたちの状況など共通の理解が深まるよう工夫している。また、特に共通の理解が必要と考えられる場面では電話や面談を通して話をするなど工夫している。	・今後も連絡ノートでのやり取りや保護者様との直接的なやり取りを通じて、こどもたちの状況など共通の理解が深まるよう努めていきたい。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2		保護者のニーズを把握し、実施につなげていきたい	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時を中心時に行って、理解していただいている。	継続してきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		面談時や送迎時に伝達し、把握する機会を設けている。	継続してきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		定期的に面談機会を設けて対応している。	継続してきたい。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		送迎時や連絡帳で保護者の様子を把握する機会を持ち、電話連絡も用い対応している。	継続していきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	2	立案し、対応している。	継続していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		随時対応をし、必要に応じ、行政に相談や相談支援と情報の共有を行っている。	継続していきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		・定期的なお便りの発行やSNSでの活動報告、インターネットを通じた情報の公開など行う工夫をしている。	・今後もお便りやSNSでの情報発信を行うとともに、ホームページを作成中のため、そちらでも情報の発信ができるよう進めていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		・個人情報の取り扱いには気を付けており、紙による情報などは施錠できる場所に保管したり、破棄するものに関してはシュレッダー処理するなどの工夫をしている。	・今後も個人情報の取り扱いには細心の注意を払っていきたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		こどもたちや保護者が理解して受け入れやすい言葉を用いるように配慮している。	継続していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	ハロウィン等で訪問したり、事業所前に掲示物等を行い、親しみの持てる事業所を目指し、行っている。	継続していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		定期的にPDFで共有とともに、事業所に掲示している。	継続していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		随時行い、職員会議を用い、想定して訓練を行っている。	継続していきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		・保護者様と情報の共有を行い、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を職員間で把握を行う工夫をしている。	・今後も保護者様と情報の共有を都度行い、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を職員間で把握を行えるよう努めていきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		・保護者様と情報の共有を行い、食物アレルギーがある利用児童に該当食物を摂取させることがないよう、職員間で確認を行うなど工夫している。	・今後も保護者様と情報の共有を都度行い、食物アレルギーがある利用児童の職員間で確認、共有を行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		作成を行い、職員間で羞恥とともに、活動に取り入れ支援を行っている。	継続していきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		3・11の時期を中心に、訓練を行う機会を持ち、随時周知している。	継続していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		・ヒヤリハット事案が発生した際には、ヒヤリハットの提出、再発防止の対策の話し合いなど行うなど工夫している。	・ヒヤリハットの提出をしっかりと行い、対策を考えていくことで大きな事故につながらないよう努めていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		・法人内研修にて虐待防止に関する研修を実施するなど、虐待防止への取り組みを行う工夫をしている。	・今後も法人内研修にて虐待防止に関する研修を実施し、虐待防止への取り組みを行ってほしいよう努める。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		定期的な面談時や必要な状況が仮定できそうな場面に会った際は、随時説明を繰り返している。		